

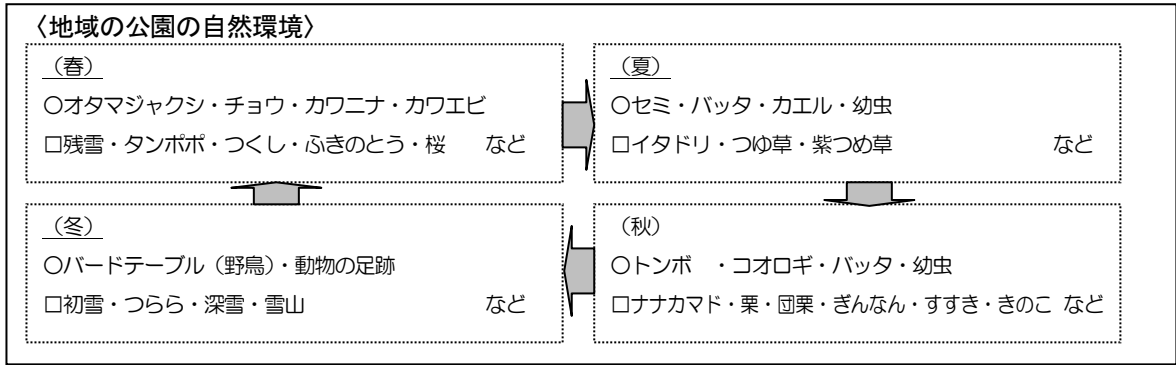
# 二年次の研究

## 1、研究内容

### (1) 自然等に対する好奇心を高める指導の充実

#### ① 身近な自然等の活用を図る指導計画の作成

自然等に対する好奇心を高めるため、地域の自然等を活用した保育の充実を図った。特に、地域の公園周辺の自然に日常的に触れる体験を充実させるため、公園周辺の自然の環境を整理し、意図的、計画的な指導の充実を図った。



#### ② 自然への興味・関心を高める指導の実際

##### ア 事例1 「あれ、栗だったんだ」(4歳児 9～10月)

ねらい：地域の公園を活用し、公園周辺の自然に日常的に触れる体験を通して、季節によって自然などに変化があることに気付く。

##### 〔9月下旬〕

子どもたちが、地域の公園に青々となっている栗の木を見つけた。しかし、まだ青い毬栗のため、「何か、なっている。」とは言うものの、栗だとは分かっていないようで、教師は「何だろうね。」と疑問を投げかけて園に戻った。

##### (教師の援助)

- ・四季の変化の様子に幼児自らが気付いてほしいことから、疑問を投げかけた。

##### 〔10月中旬〕

地域の公園に行く途中、A児が茶色くなって落ちている毬栗を見付け、みんなに「栗だよ。」と教えていた。他の子どもも拾ったことはあるようで、足などを使って毬栗から上手に栗を取り出して拾い集めていた。

##### (教師の援助)

- ・秋の木の実への興味・関心を高めるため、栗の木がある道を歩いた。

ある程度拾ったところで、教師が「この前に見た公園の木は、何だったんだろうね」と尋ねると、B児が「あれは、栗だったのかも。」と気付いたようであった。

##### (教師の援助)

- ・季節による栗の木の变化に気付いてほしいことから、9月に訪れた公園の木を想起させる言葉をかけた。

公園に到着すると、子どもたちは栗の木を目がけて一目散に走っていき、青々としていた毬栗が、茶色くなって落ちていることから、栗の木であったことを確かめ合っていた。

そのような中、B児が「栗、食べたいね。」とつぶやいたことで、再び栗拾いが始まった。

本実践において地域の自然環境を明確にし、四季の変化を見通して繰り返し関わる活動を位置付けることや、気付きを促したり、一人の気付きを全体に広げたりする言葉をかけることにより、四季の変化に気付きながら自然等に積極的に関わる幼児の姿が見られるようになった。

## イ 事例2 「なんか違う」(5歳児 5~6月)

ねらい:地域の公園を活用し、公園周辺の動植物に触れる体験を通して、さらに動植物への興味・関心をもち、いたわったり、大切にしたりする。

### 〔5月初旬〕

職員が雪解けの水たまりにあった生き物の卵を見付け、子どもたちと卵を取りに出かけることになった。

次の日から、子どもたちは、登園すると必ず飼育ケースを覗き込み、「伸びている。」「動いている。」と言いながら、生き物の成長を喜び、飼育を続けていた。



#### (教師の援助)

- ・生き物への興味・関心を高めるため、卵を見せたり、取りに出かけたりした。

### 〔5月下旬〕

ある日、卵からかえった生き物を見て、A児が「なんか違う!」と周りの子に伝えていた。生き物をよく見ると、一方は「おたまじゃくし」だが、もう一方には「えら」が付いていた。すると、A児が「こっち(えらが付いた方)は‘なまはげ’だから、おたまじゃくしが食べられる。」と言ったことから、「えら」が付いた生き物を別の飼育ケースに移すことにした。

教師が、子どもたちに「何になるのだろう。」と問いかけると、子どもたちは、図鑑を使って熱心に調べた。が、どのページを開いても「えら」が付いた生き物を見付けることができなかった。

その後、子どもたちに「えら」が付いた生き物の正体を突き止めることを諦める様子が見られたが、おたまじゃくしとの食べ物の違いに気付かせながら、継続して世話をするように働きかけた。



#### (教師の援助)

- ・よく観察しているA児の気付きを大切にするため、えらの付いた生き物を別の飼育ケースに移した。
- ・成長に期待がもてるよう、A児の発想を生かし「なまはげ君」というニックネームを共有したり、新たな疑問を投げかけたりした。

#### (教師の援助)

- ・継続して世話をする中で、さらに好奇心が高まるように、2種類の生き物の食べ物の違いに気付かせる言葉を投げかけた。

### 〔6月初旬〕

「えら」が付いた生き物の「えら」が少しずつ消え、子どもたちと成長を喜んでいると、B児が「これ、サンショウウオかなあ。」とつぶやいた。

そして、再度、子どもと共に図鑑で調べると、その生き物の正体が「サンショウウオ」と判明した。

教師が「B君、すごいね。どうして分かったの。」と尋ねると、B児は「前、お兄ちゃんが飼っていた生き物に似ていた。」と答えた。

B児の近くにいたA児は、晴れ晴れとした表情で周囲の友達に「サンショウウオだって!」と教えていた。

その後、子どもたちと「サンショウウオ」の看板を作って飼育を続けた。

#### (教師の援助)

- ・名前の分からない生き物への探究心が高まるよう、B児のつぶやきから、生き物の正体を図鑑で調べることを働きかけた。

#### (教師の援助)

- ・子どもが相互に関わり合い、協力しながら継続して世話をすることができるよう看板を作った。

本実践において動植物に日常的に関わる活動を位置付けること、他の生き物を比べさせたり、成長の変化を振り返らせたりすることにより、動植物への興味・関心を高め、継続して生き物の世話に取り組む幼児の姿が見られるようになった。

ウ 事例3 「草花を使った染め物遊び」(5歳児 9月)

ねらい：染め物遊びを通して、身近な草花に関心をもったり、様々な模様を作ることを楽しんだりする。

**【8月下旬】**

新学期が始まってから、子どもたちは、色水遊びに興味・関心を示し、色水遊びが続いていたことから、教師から「草花を使って何かを染めてみようか。」と投げかけてみた。

(教師の援助)

- ・色の変化を楽しむ姿から、更に表現する楽しさを感じてほしいと願い、染め物で遊ぶことを投げかけた。

**【9月初旬】**

子どもたちが草花などを持ち寄り、染め物をすることにした。子どもたちは、布に草花の色が煮出しながら染まっていく様子に「わー」と声をあげたり、模様が出来たのを見て「おおー」と驚きの声を出したりしていた。また、互いの染め物を比べるように促すと、「色が薄いなあ」と残念がったり、模様の違いを感じたりしていた。

(教師の援助)

- ・表現することを楽しみ、より豊かに表現しようとする意欲が高まるよう友達の染め物を比べられるように働きかけた。

**【数日後】**

教師は、火を使わずに手軽に染め物ができるよう「酢」を準備し、園庭で染め物のスペース作りをしていると、A児が近寄ってきて、花を集めて、染め物をする事となった。



次に、B児やC児、D児が、「何をしているの。」「入れて。」と仲間入りをしてきた。A児は、一緒に遊ぶ仲間が増えたことで、とても嬉しそうなお表情を見せていた。

酢を使って染め物をする時、子どもたちは、「臭い。」と言っていたが、すぐに「すごく染まる！」と驚きの声を上げた。

そして、布を開くと模様ははっきりと浮き出していた。それを見た子どもたちは、「紫にしたいから、アサガオの花を採ってくる。」と畑の方へ探しに行ったり、「これくらいで足りるかな。」と草花の量を考えたりしていた。

(教師の援助)

- ・幼児が主体的に染め物遊びに取り組むことができるよう、幼児の力でも簡単に染め物ができる方法を示した。

四人の子どもたちの様子を見ていた他の子どもたちも遊びに加わると、A児は「まず花をつぶすんだよ」と遊びの中心になって、他の子どもをリードしていた。また、B児は、「次は、水だ。」という声をかけ、C児とD児が真っ先に水を取りに行くなど、役割分担をしながら遊びを進める姿が見られるようになった。



(教師の援助)

- ・様々な色に染めたいという幼児の願いが実現できるよう畑に育てている様々な色の花や、地域の野草などを積極的に活用するよう働きかけた。

本実践において草花などを様々な遊びに活用するなど、身近な自然のいろいろな面に触れさせたことにより、身の回りの様々なものを活用し、試行錯誤を繰り返しながら工夫して遊ぶ幼児の姿が見られるようになった。また、幼児一人一人が工夫して遊ぶことで、友達の遊びを真似したり、参考にしたりしながら、友達と関わって遊ぶ姿が見られるようになった。

(2) 幼児の心の変化を捉える保育記録と分析の工夫

① 週案を活用した記録の工夫と分析

本園では、各教師が保育の記録をそれぞれのノートに書いたり、週案にまとめたりしながら、幼児一人一人の変容を捉えてきた。

また、週末には、全教師で記録を読み返し、幼児の行動や、周囲の人やもの等への関わり方などから、心の変化を読み取り、保育の改善充実を図ってきた。

① 子どもの心の動きを捉えることができる行動等に下線を引きながら振り返ります。

〈各教師による日々の記録〉

H25. 4. 10 (水)

ホールでは、すもうが始まり、やりたい子が集まっている。  
 D児 ~ 何處も何處も 走る。E児に負けてはかりで「女の子したい」と言っている。  
 負けが嫌いな？ 女の子になら勝てる考えた？  
 F児 ~ E児との対決で負けるを泣き出し、教師が「悔しかったね」と声をかけると、  
「耳痛い！」「周りの声大きい」と言う。  
 勝ちたかったのさう。悔しい気持ちを自分で認められたいのかもしれない。

H25. 5. 20 (月)

卵探し → D児の祖父母宅が近くにあるので、案内係として張り切っている。  
 あせ道で足元が悪い中を子どもたちは 一生懸命 についてくる。  
 「卵探し」という目的があるから？ 荷があるから？  
 教師は「すみれ組探検隊だね」と声を掛けて、気分を盛り上げる。  
 「あ、何か動いた！」と田んぼを見た。足元を良く見て「虫がいるー！」と言った。  
 歩きながら 色々な発見 がある子どもたち。  
 普段は行かない場所だから新鮮だったのかもしれない。  
 卵の場所につくと、すでに おたまじゃくし になっていて少し残念だったが、教師が  
 「幼稚園にはない不思議なもの、面白いものを探そう」と提案すると、思い思いに  
 「発見！」と花や草を見つけ手にしていた。  
「おと探検しよう」 という声も出ていた。  
 楽しい！面白い！おと！という意欲が湧き立てられたのかもしれない。

〈週案を活用した記録〉

4歳児 週日案 平成25年9月17日～9月20日

先週の子どもの姿	③ 全教師で記録を分析したことなどについて記述し、翌週の保育計画に生かします。		ねら	○いろいろな遊びを通し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。			
			内容	○自分のしたいことや思ったことを友達や教師に伝えながら遊ぶことを楽しむ。			
			環境と援助	●友達の作っているものや、していることに興味をもてるような環境を作っていく。			
				☆自分の思ったことなどを友達と話している姿を見守り、言葉を補ったり、言い方を伝えたりして、つながりがもてるようにする。			
月日	15日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)		
予想される活動	〈敬老の日〉	○戸外遊び ○自然を使った遊び ○跳び箱など					
様子等	② 各教師が、それぞれの記録を振り返りながら、週案にまとめます。一人の幼児を中心にまとめる場合もあります。						

## ② 友達との関わりを広げる記録の分析と指導の実際

### ア 事例4 「ケーキ屋さん」(4歳児 9月)

A児は、入園当初は、自発的な言葉が少なく、周りの様子を見てから行動することが多かったが、少しずつ家庭での出来事などを教師に話をするようになってきた。

自分の思いをしっかりともっているようだが、経験が少なく、自信がないように感じられたことから、自分がしたいことを見つけてじっくりと遊び、少しずつ自分の思いを友達に伝えてほしいと考えていた。

#### 【9月初旬】

B児とC児は二人で会話をしながら、砂で型を作って遊んでいた。少し離れたところでは、A児が一人で同じような遊びをしていたので、教師がA児に「一緒に遊んだら。」と声を掛けた。A児は、二人の様子を見るが、移動しようとはしないため、教師は、B児とC児に「Aちゃんもいるから一緒に遊んだら。」と声を掛けた。そして、B児とC児が「一緒に遊ぼう。」とA児を誘うとA児は「いいよ。」と言って、自分が使っていたものを持って、B児とC児と一緒に遊び始めた。

三人の様子をしばらく見ていると同じような遊びが続いたので、教師が仲間に入り、草や花を砂の型の上に乗せ、ケーキに見立てて三人に見せた。三人は、「すごーい。」と目を輝かせ、「自分たちも作る！」と作り始めた。その際、B児とC児は「花を取ってきた。」など、会話をしながら作っているが、A児は黙々とケーキを作るだけで、会話に入っていくことができない様子だった。

ある程度ケーキができたので、教師が「ケーキ屋さんにしてみよう。」と提案すると、B児とC児は、お店の場所作りを始めるが、A児は相変わらず自分のケーキ作りに一生懸命だった。

やがて、お店が完成し、ケーキを並べることになり、B児はA児に「Aちゃんのものも並べよう。」と声を掛けた。A児は、自分のケーキをお店に並べるもの、お店がオープンしても砂場で作ってはお店に届ける、という遊びしか行っていない様子だった。

#### (教師の読み取り)

B児とC児との関わりがもてるように声をかけたが、まだ、一人での遊びを楽しみたかったかも知れない。



#### (教師の読み取り)

ケーキ作りに一生懸命取り組むA児とケーキ屋の場づくりをするB児たちとでは、したいことのイメージが違うのかもしれない。

#### (教師の読み取り)

一人でケーキ作りを楽しんでいることから、もう少しA児なりのイメージで遊ばせることが大切ではないか。

#### 【翌日】

B児とC児は、お互いに誘い合って準備を始めていたが、A児は二人の様子を見ているものの、一人でケーキを作っていた。

#### 【9月下旬】

教師は再度仲間に入り、B児とC児に、A児も準備に誘うよう促した。A児は声をかけられると一緒になって場所を作り始めるが、売り買いになると、また砂場でケーキを作るといった様子であった。

そこで、教師が「Aちゃんのおいしそうなケーキをみんなに食べてもらえるように、Cちゃんと一緒にお店オープンしましたって声をかけてきて。」と頼むと、A児はC児と拡声器を持ち歩き始めた。最初、A児は声を出せずにいたが、C児が「Aちゃん、ケーキ屋さんオープンしましたって言うんだよ。」と囁くと、拡声器を使って「ケーキ屋さんオープンしました。」と言うことができた。

そして、ケーキ屋さんごっこでは、教師が店員となったことで、A児はケーキを売って遊ぶことができた。

その日の帰り、A児に楽しかったことを尋ねると「ケーキを売ったことが楽しかった。」と答えた。そして、周りの友達がケーキ屋さんのケーキを楽しみにしていることを伝えると、A児はうれしそうな表情を見せた。

#### (教師の読み取り)

A児のケーキのよさを認めることで自信を高め、拡声器を使って、自分の言葉を伝える楽しさを感じさせる場面と捉えた。

#### (教師の読み取り)

A児が、ケーキを売る楽しさを感じたように思えたことから、友達の気持ちを伝え、友達と関わることの楽しさを更に実感させたいと捉えた。

本実践においてA児との関わりを振り返りながら援助を工夫したことにより、A児は少しずつ自分の思いを表現し、友達と関わって遊ぶ姿が見られるようになってきた。

今後のA児との関わりについて、以下の点について、教職員で共通理解を図った。

- ・A児がしたい遊びに存分に取り組ませながら、A児のよさを認める言葉がけを行うことが大切である。また、周りの友達の思いを伝えたことでうれしそうな表情を見せたことから、他の幼児にもA児のよさを伝えていく必要がある。
- ・拡声器を活用したことで、A児は自分の思いを言葉で伝えることができるようになってきたことから、今後も言葉で表現することの楽しさが感じられる援助や環境構成の工夫に努める必要がある。

### (3) 協同性を育む指導の充実

#### ① 目指す幼児の姿と援助の明確化

幼児一人一人が互いの関わりを深めながら、協同して遊ぶことができるよう年間指導計画に「目指す幼児の姿」や「教師の援助」を位置付け、計画的、組織的な指導の充実を図った。

〈4歳児 年間指導計画〉					〈5歳児 年間指導計画〉				
月	4月	5月	6月	7月	月	12月	1月	2月	3月
期	1		2		期	9		10	
活動の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緊張感が少しずつ取れ、教師と一緒に好きな遊びに取り組んでいる。</li> <li>○楽しそうなことをやってみる。</li> <li>○戸外へ出て体を動かす。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○色々な遊びが気に入り、教師や年長児がしていることをやってみる。</li> <li>○戸外遊びを喜び好きな遊びを見付ける。</li> <li>○発見したことを伝える。</li> </ul>		活動の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ目的をもって遊びを進め、意見のぶつかり合いをしながらも取り組む。</li> <li>○友達を誘ってルールのある遊びに繰り返し取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意見を伝えながら相談して遊びを進めている。</li> <li>○生活の見通しを持って協力しながら行動している。</li> </ul>	
教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安定感をもって好きな遊びに取り組むことができるよう一緒に遊び、思いを受け止める。</li> <li>○「おもしろい」「やってみよう」思いを受け止めながら自ら動いていけるようにする。</li> <li>○体を動かす楽しさを感じていけるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○思い思いの動きに共感し、共に楽しみ、心地よさと満足感を得られるようにする。</li> <li>○周りの自然に心を寄せ、大切にしている姿を見せて一緒に変化に気付くようにする。</li> </ul>		教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの幼児の思いが共通の目的となるよう伝え合いを大切にする。</li> <li>○自分の力で活動を進め自信につながるよう認める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力を発揮できるように活動や生活に取り組む姿を認める。</li> <li>○一人一人が自分の力を発揮して活動にとりくんでいるような環境や場面を構成する。</li> </ul>	

※年間指導計画の詳細は別紙を参照 (P28)

#### ② 協同して遊ぶようになるための過程を踏まえた指導の実際

##### ア 事例5 「缶蹴り」(4歳児 8月)

ねらい：友達と関わり合って遊ぶ楽しさを感じることができるようにする。

教師の援助：友達同士のやり取りを見守ったり、必要に応じて一緒に遊んだりする。

<p><b>【8月下旬】</b></p> <p>A児が、缶けりをしたいと家から缶を持ってきた。外に出るなり、「缶けりしたい人。この指止まれ。」と誘っていた。</p> <p>何人かが、「やりたい。」と集まり、A児にルールを聞いているようだが、A児は「缶を蹴るんだよ。」と答えるだけで、A児自身も十分にルールを把握していない様子だった。</p> <p>教師もA児のイメージするルールがよく把握できなかったことから、一緒に参加して共に考えながら遊びを進めることにした。</p> <p>子どもたちは、ルールが分からないなりに、隠れることを楽しんでいて。園庭で隠れて遊ぶという体験が初めてなこともあり、上手く隠れられなかったりしていたが、回数を重ねるうちに考えて隠れるようになってきた。</p> <p>教師は、子どもたちなりのルールが浸透するまで鬼のそばで見守り声をかけることにした。</p>	<p><b>(教師の援助)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・缶蹴りがしたいというA児の思いを大切にして、みんなまで遊びを進めてほしいと願い、ルールを確認しながら遊びと一緒に参加した。</li> </ul>
<p>子どもたちは、ルールが分からないなりに、隠れることを楽しんでいて、子どもたちなりにルールを確かめながら遊んでほしいと願い、鬼のそばで遊びを見守った。</p>	<p><b>(教師の援助)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隠れることを楽しんでおり、子どもたちなりにルールを確かめながら遊んでほしいと願い、鬼のそばで遊びを見守った。</li> </ul>

教師は、5歳児が加わったこともあり、見守ることをやめて遊びに参加することにした。教師自ら鬼の隙を見て缶を蹴ると鬼役の5歳児が悔しがりながら、「この遊び楽しいね。」とつぶやいた。

その後も1時間近くを缶けりを続け、遊びが終わって缶を大切に拾ったA児は「へこんだね。」と缶を見て話していた。また、「楽しかったから、また明日もやろうね。」とみんなに伝えていた。



**(教師の援助)**

- ・ルールが浸透されたので、缶蹴りの楽しさを実感しながら、体全体を使って思い切り遊んでほしいと願い、遊びに参加し、缶蹴りを楽しんだ。

本実践において、教師が遊びのつなぎ役をしたり、遊びを見守ったり、遊びを楽しんだりするなど、幼児の遊びを捉えて見通しをもった関わり方をしたことにより、ルールを守り、友達との関わりを楽しみながら遊ぶ幼児の姿が見られるようになった。

**イ 事例6「みどりん子祭りごっこ」(5歳児 10月)**

ねらい：幼児が互いに協力し合い、同じ目的に向かって、繰り返したり、試したりしながら、遊びを進めていくことができるようにする。

教師の援助：十分な時間や場を確保したり、話し合いの仲立ちをしたりする。

**【12月初旬】**

子どもたちが保護者と一緒にゲームなどを行う「みどりん子祭り(園行事)」の経験から、子どもたち自身で「みどりん子祭りごっこ」を行うこととなった。

教師は、子どもたちに、何を作ったらよいかを考え、必要な材料をもってくるように伝えた。

**(教師の援助)**

- ・自分のやりたい遊びのイメージをしっかりと持ってほしいことから、必要な材料を考えさせるようにした。

**【翌日】**

子どもたちは、新聞紙や空き箱などを持参し、スマートボールなど、4種類のゲームを行うこととなった。

スマートボールの係になったA児とB児は、どうやって作るか悩んでいるようであったが、B児が家から持ってきた箱を利用することとした。

A児とB児は、箱に穴を開けるなど、イメージを出し合って、スマートボールの台作りを行った。

スマートボールの台が出来上がり、A児とB児は、何を転がすかを考え、どんぐりを使うこととした。教師が、「転がしたら、あちこちから落ちそうだね」と言ったことで、A児とB児は、どんぐりが飛び出さないよう上下左右に壁のように箱を付け始めた。

**(教師の援助)**

- ・友達の考えを受け入れるなど、相談し合って遊びを進めてほしいことから、二人の様子を見守った。

**(教師の援助)**

- ・どんぐりの転がり方のおもしろさが実感できるスマートボールを作ることができるよう工夫するポイントを示した。

**【数日後】**

スマートボールの枠と穴が出来上がり、A児とB児は、どんぐりを転がしてみるが、箱が薄く、どんぐりが穴に上手にはまらないことに気付きどうしたらよいか困っていた。

そこで、どんぐりが穴にはまらない理由を考えさせ、箱の裏などに段ボールを付けて厚みをもたせることに気付かせた。また、教師から、段ボールなどで受け口をつけることを提示した。

A児とB児は、段ボールを切ったり、押さえたりしながら、協力して受け口を作っていた。

**(教師の援助)**

- ・友達と協力してスマートボールを作ったという達成感や満足感が感じられるよう協力して作業ができる方法を示した。

スマートボールの台に厚みを付けたり、受け口が出来上がり、再びドングリを転がしてみるが、平らな場所だったので、ドングリが転がってこなかった。

そこで、B児は空き箱を持ってきて作った台の下につけて斜めにした。A児は「斜めにしなくてはね。」とB児のアイディアに気がつき「それいいかも」と箱を押さえてあげている。

スマートボールが完成すると、二人は、ゲームの値段を決めて、「スマートボール出来ました。」「10円です。」と呼びかけを始めた。



本実践において、遊ぶための十分な時間や空間、場を保障することや、幼児の発見に共感しながらアドバイスをしたり、遊びが発展する言葉をかけたりすることにより、幼児が互いに協力し合い、試行錯誤を繰り返しながらも同じ目的に向かって、遊びを進める幼児の姿が見られるようになった。

### (3)教育講演会の実施

日時 平成25年7月4日(木)  
講師 拓殖大学短期大学部 准教授 岡 健吾氏  
演題 「園児の戸外活動」  
内容 戸外活動と体を動かして遊ぶことの楽しさと幼児の発達について保護者と共に学ぶ講演と実技、研究協議  
(研究協議は職員のみ)  
参加者 保護者24名 教職員 6名 園児27名



保護者の皆さんと一緒に

### (4)公開研究会の実施

日時 平成25年10月2日(金)  
主催 浦臼町立みどり幼稚園  
内容 公開保育 研究協議  
助言者 空知教育局義務教育指導班 森田靖史 指導主事  
参加者 管内公立幼稚園 5名 保育所3名  
私立幼稚園 2名 本園教職員 6名



友達とお店屋さんになって

### (5) 先進園の視察

日時 平成25年12月13日(金)  
視察先 東神楽町東神楽幼稚園  
内容 保育参観及び環境視察、質疑、意見交換



## 2、研究成果

### ①研究成果

- ・1年次に引き続き幼児の自然等に対する好奇心を高めるため、園周辺の環境の利用を見直し、四季を意識した指導計画に改善し、常に自然と触れ合い、遊びに取り入れていくことができるような工夫を重ねてきた。さらに2年次は、幼児がこうした自然等への気付きを友達と一緒に楽しんだり伝え合ったりする喜びが味わえるような援助にも心がけてきた。
- ・幼児一人一人の心の動きに視点をおいたエピソードの記録の分析からは、幼児が身の周りの自然に興味や関心を掻き立てられ、思わず体が動き、友達と遊びに取り入れたり探究したりする姿が多く見られるようになった。
- ・環境の構成や教師の援助のポイントとして、4歳児では教師が共に仲間になりながら自分たちで遊びを進めている満足感が得られるようにすること、5歳児では友達と試行錯誤しながら遊びのイメージの実現に向けて目的を明確化したり共有化したりできるようにすることが必要であることが分かった。
- ・心と体を動かし、伸び伸びと活動する幼児を育てるためには、教師が幼児にとって良き理解者となり、幼児の心の動きを捉え体の動きを促すような環境の構成を工夫し、成功体験に向けての援助、満足感や充実感を深める援助をしていくことが重要である。
- ・教師が意図をもって幼児と共に活動を展開していくことで、幼児は自分たちの目的を実現するために体を十分に動かし、繰り返し試す、楽しむ等、伸び伸びと活動する姿へつながることから、今後も教育課程に位置づけ指導計画の充実を図っていきたい。

## 3、今後の取り組みと課題

- ・身近な自然等の環境の生かし方、有効性についてさらに研究し充実させていく必要があるため教育課程を検証しながら継続していきたい。
- ・心と体の調和のとれた望ましい発達を促し、小学校以降の基盤づくりが充実するよう、家庭や地域、小学校と連携を深めていく必要がある。